

船工 第372号
令和2年12月11日

会 員 各 位

一般社団法人 日本船用工業会
専務理事 安藤 昇
(公印省略)

「スマートナビゲーションシステム研究会4 (SSAP4)」の参加募集について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より当会の事業運営につきましては、格別のご高配とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当会では、2012年にスマートナビゲーションシステム研究会を発足させ、船内の関連する異機種間での情報統合化を可能にするための船内及び船陸間の情報インフラを構築し、且つそれらを標準化するための活動をして参りました。その後、目標と期間を定め、フェーズ2である新スマートナビゲーションシステム研究会(新スマナビ研)、フェーズ3であるスマートナビゲーションシステム研究会3(スマナビ研3)と活動を継続し、現在では船用メーカー・海運・造船業界のみならず、IT関連企業などを含み、計56社、110名を超えるメンバーで構成される、まさしく海事クラスターを代表する研究会となりました。今般、4件のISO規格化に向けて検討を進めてきましたが、全てのNP(新業務項目提案)投票を終えたところで、スマナビ研3を発足した当初に設定した活動期限である9月末をむかえ、その活動を終了することとなりました。

しかしながら、規格化に至るまでの継続した審議母体や、日本の海事業界全体として、船のIT・OT・IoTに関する共通課題について議論する場は引き続き必要であることから、別紙のとおり、フェーズ4となる標記研究会を設けることといたしましたので、ご案内申し上げます。

つきましては、本研究会へ参加を希望される場合は、添付の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、来る2021年1月6日(水)までに、事務局宛Eメールにてご連絡をいただきたくよろしくお願いいたします。

なお、本研究会へご参加いただく場合には、参加費をご負担(スマナビ研3の参加者を除く。)いただくと共に、陸上試験及び実船試験等を行う際には、貴社の関連機器の貸与、本研究会に係わる作業等をお願いする場合がありますので、あらかじめご承知おき下さいますようお願い申し上げます。

敬具

お問い合わせ先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-13-3 (虎ノ門東洋共同ビル 5F)
一般社団法人 日本船用工業会 技術部
TEL 080-4053-0345
担当者 文屋・三田村 E-mail:mitamura@jsmea.or.jp

「スマートナビゲーションシステム研究会4(SSAP4)」の設置について

1. はじめに

スマートナビゲーションシステム研究会(SSAP)(以下、「スマナビ研」)は、2012年12月に発足してから、船上及び陸上のITプラットフォームに関する調査、研究及び開発並びにこれらの成果をもとにした実証試験を行い、国際規格化に取り組んできた。その成果として、2018年10月に正式にISO19847(実海域データ共有化のための船内データサーバ要件)、ISO19848(船舶機関及び装置のデータ標準)の規格が制定された。その後も活動を継続し、成果の実用化及び普及促進を図ることに加え、船舶におけるサイバーセキュリティ対策に関する検討も行ってきた。

今日に至るまでに、会員企業、船社、造船、研究機関等の参加企業56社110名を超えるメンバーを有し、まさに海事クラスターを代表する研究会に成長し、知名度においても国内のみならず、海外にもその活動及び成果は認められるものとなった。そこで、更なる普及を目指すとともに、フェーズ3であるスマナビ研3で検討を重ねた規格のフォローアップ、日進月歩で進化するIT・OT・IoTの分野に関する共通課題の研究調査を目的とし、新たに「スマートナビゲーションシステム研究会(phase4)(SSAP4)」を発足する。

2. 活動目的

- (1) 船のIT、OT、IoTに関する共通課題に関する調査研究
- (2) 船陸間ファイル共有・データ共有の機能要件に関する調査研究
- (3) データカタログに関する調査研究(データ標準化範囲の拡張)
- (4) データサーバ試験規格の開発(ISO19847(船上サーバ要件)に準拠した試験規格の開発)
- (5) 船内LAN装備指針の改訂と試験規格の開発(ISO16425(船内LAN装備指針)の改訂及びISO16425に準拠したネットワークシステムの試験規格の開発)
- (6) ISO/TC8対応及び国際連携

3. 活動期間

- ・2021年1月からの2年間を活動期間とする。(期間:2021/1/1~2022/12/31)

4. 新研究会のメンバー

- ・海運、造船所、船用メーカー、関連団体など

5. 新研究会の参加条件

- ・原則、当会会員企業であること。
- ・スマナビ研3に参加頂いた方は、参加費は無料とする。
- ・スマナビ研3に参加頂いていない方は、参加費(研究成果の活用権利の取得費)として、1社200万円(消費税込)を徴収する。もし希望があれば、1年目に100万円、2年目に100万円を分割して支払うことを可能とする。ただし、2022年1月1日以降の参加の場合、前述の分割条件に関わらず200万円を徴収するものとする。

・参加者は、本研究会に関連した作業を実施する。

6. 新研究会の実施方法

・研究会は(一社)日本船用工業会の主催とし、事務も同会で行う。

7. 活動内容詳細とWG(ワーキンググループ)構成

7.1 共通課題検討WG

日本の海事業界全体から見た船のIT、OT、IoTに関する共通課題について本WGで議論する。そこで出た重要なテーマについては、本WGの下にSIG(Special Interest Group)というグループを設け、調査及び研究を行う。

(初期設置)

・サイバーセキュリティSIG

*その他のSIGについては、共通テーマのアンケート結果をもとに、同WGで検討の上、設置することとする。

7.2 ISO16425改定WG

スマナビ研3で実施した本規格の改定プロセスに対し、日本船舶技術研究協会(以下、「船技協」という。)と連携して、規格化までのフォローアップを行う。

※ISO16425(2015年):船内の多種多様な機器をLANで接続するための装備指針

7.3 ISO19847改定WG

スマナビ研3で実施した本規格の改定プロセスに対し、船技協と連携して、規格化までのフォローアップを行う。

7.4 ISO19848改定及びデータ辞書保守WG

スマナビ研3で実施した本規格の改定プロセスに対し、船技協と連携して、規格化までのフォローアップを行う。また、データ辞書の保守体制の構築を行うとともに、国内外への普及を目指し、ITインフラの検討及び構築を行う。

7.5 ISO23807策定WG

スマナビ研3で実施した本規格の策定プロセスに対し、船技協と連携して、規格化までのフォローアップを行う。

7.6 国際対応担当事務局

ISO/TC8/SC6/WG16に対し、スマナビ研3から実施中の規格化案件に関する各国からのコメント対応及びリエゾン関係の構築、IEC等の他国際標準化活動との連携を推進する。

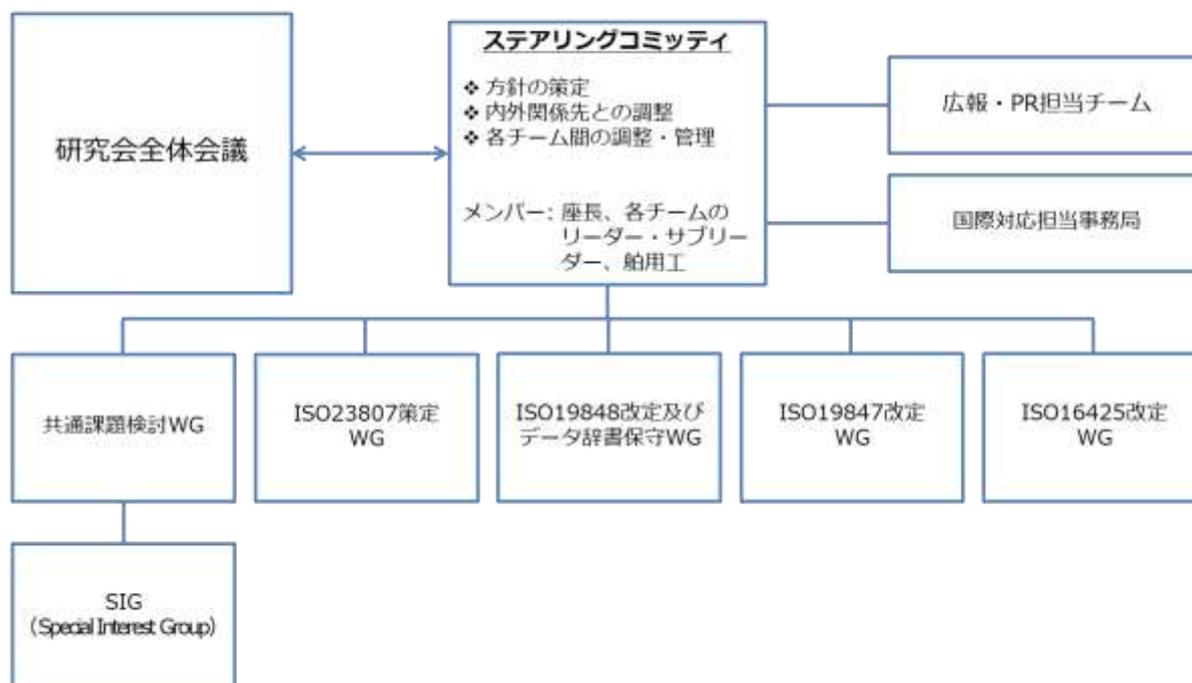
7.7 広報・PR担当チーム

国交省、船技協、NK 等、標準化活動に関わる組織との連携強化や、SSAP 専用ホームページの活用やセミナーなどによる PR 活動の企画立案を行う。

8. 組織

スマナビ研4 組織体制

(活動期間 2年間：2021年1月1日～2022年12月31日)



申込用紙

年 月 日

(一社)日本船用工業会 技術部 (文屋・三田村) 宛

E-MAIL : mitamura@jsmea.or.jp

「スマートナビゲーションシステム研究会 4 (SSAP4)」 参加申込書

貴社名 _____

所属・役職 _____

ご氏名 _____

電話番号 _____

E-mail _____

住所 〒 _____

【参加を希望するWG (ワーキンググループ)】

- ・各WGの活動内容は、別紙の「7. 活動内容詳細とWG構成」をご覧ください
- ・WGは複数参加可能です
- ・参加WGは、後日変更が可能です

WG名	参加希望 「○(丸印)」を記入してください
共通課題検討WG	
ISO16425 改定WG	
ISO19847 改定WG	
ISO19848 改定及びデータ辞書保守WG	
ISO23807 策定WG	

※参加者は、できる限りいずれかのWGにご参加ください。